

NPO都市災害に備える技術者の会 第2回WG議事録

日時 : 平成 17 年 5 月 16 日 18:00 ~ 20:00

場所 : 神戸まちづくりセンター6F会議室

出席者: 笹山, 石川, 太田, 片瀬, 伊藤, 宮本, 松本, 谷口, 林,
三輪(まちづくりセンター館長), 露口(まちづくりセンター), 柿本(神戸市)(敬称略)

配布資料 ・ 前回議事録(WG1回)

・ 2005年5月新潟県中越地震被災地 雪解け後の状況調査 [太田]

・ 地震動予測値図の公表にあたって及びFAQ(文科省ホームページ資料)[石川]

1. 2005年5月新潟県中越地震被災地 雪解け後の状況調査

土木学会の委員会で視察した雪解け後の被災地の状況を報告した(同様の内容は本NPOのホームページに載せる予定ですので、こちらでご確認ください)。

2. 津波・地震災害軽減を考えるWGについて具体化に向けて会員の意見交換を行った。

石川リーダーより、今後の活動方向として、

1kmメッシュの地震動予測値図の市民向け活用提言について勉強を進める

自治体のニーズの把握を行う

という2つの方向が示され、当面は の勉強会を中心に活動していくこととした。

具体的な例として、横浜市の活用例を石川会員に、また、可能ならば神戸市の例を市の関係者の会員から次回以降にご紹介戴くことになった。

なお、意見交換の内容は下記のようなものである。

・ 文科省の地震動予測地図は、個々の活断層地震の発生確率を求めるものと、ある断層が動いた場合の地震動のゆれに関するシナリオを作成するという2つからなっており、これらは兵庫県南部地震の調査結果を世界中の科学者が検討整理した最新の成果が盛り込まれている。

・ 現在公表されている1kmメッシュの活用方法について、実際に活用するにはどの程度のメッシュまで細分する必要があるのか、横浜市では国の推奨する50mメッシュでやっているが、地形や地質を考慮すればもっと効率的、安価にできないか。250mメッシュ程度からという考えもある。

・ 神戸市も減災研究会で検討したりしており、今後紹介できるかもしれない。

・ ハザードマップを配布するだけでは、なかなか耐震診断や補修まで結びつかない。WGの活動がそのような方面(たとえば神戸市の防災福祉コミュニティ活動など)で役に立つことを期待したい。

・ 実際に耐震診断をした経験から言うと、民間の診断結果を再評価できるようなものがほしい(セカンドオピニオンの活動)。

・ 宮古市では、自治会を中心に老人一人一人まで把握しようとして活動している例もある。しかし、都市には個性があり、自治会自体が名目的になっている場合も少なくない。

・ たとえば老人には診療所の待合室、子供には学校という普及の場があるのではないか。

・ 地震の発生確率を、降雨確率と同じ感覚で捉えている例をみるがこれでは防災が普及しない(10%の降雨確率で傘を持っていく人は少ない)。それに比べ、癌などの病気の発生確率や火災の発生確率の何倍というような説明の仕方のほうが実感をいだきやすい。説明の仕方ということも重要であると思う。

次回の開催は、6月20日(月)とし、開催時間は30分繰り下げて 午後6時30分
~ 8時30分とする。

(議事録作成 林 義隆)